

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ開設 T-over人権教育研究所・人権こども塾創設のごあいさつ

「峠を越えて」——。

部落問題学習に、学年全体、学校全体で取り組みはじめた30年前。

部落差別の現実が、いじめの実態が、語られていきました。

家族が、生活が、自分自身が、赤裸々に語られていきました。

中学生だけでなく、教師も。——本気でした。

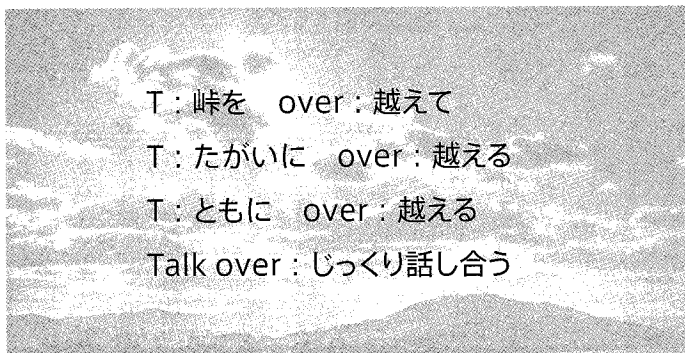
その実践をまとめた冊子が、「峠を越えて」でした。

「答辞 いま静かに目を閉じますと、過ぎ去った三カ年のさまざまな思い出が浮かんでまいります。——中略——

そして、学年、学校全体で取り組んだ部落問題学習。私たちはこの部落問題学習で、涙を流しながら自らの想いを語る友と、差別への怒りに震えた友と、共感し合い、支え合い、仲間の絆を深め合うことができました。

『本音を語る』たったそれだけのことが、どれほど苦しいことなのか。私たちはこの学校で、この体育館で、初めて知りました。部落問題学習に取り組んでいた私たちは、『輝いていた』と自信をもって言うことができます。

私たちは、この差別を闘おうとする炎を、身体を熱くする炎を、いま、在校生の皆様に託します。」



いじめも差別も、どんな手法をもってしても、必ずどこかで、「語り合い」が必要と思います。

それなくして、解決には結びつかないと。

それを教えてくれたのは、純粹に、誠実に、懸命に、明るく、豊かに、いきいきと、自らを語る、語り合う中学生でした。

一方的な発表や宣言は、不十分。

言葉を返し、思いを返し、互いを知り、つながり合う。

そうして、たがいに越えていきました。ともに越えていきました。

そんな「語り合い」は、どうすれば可能となるのか——。



「みんなで語り合う人権学習」これが私たちのコンセプト。

「うずしおランチ」開設とともに創設した、

「T-over 人権教育研究所」

それは、「みんなで語り合う人権学習」の意義や手法について学び合う、おとなの場。

「T-over 人権こども塾」

それは、学校や年齢の枠を越え、人権をテーマに直接つながり学び合う、こどもの場。

それはもしかすると、見たことのない世界。

それはもしかすると、水平の先にある未知の領域。

2019年秋、徳島から発信します。

うずしおランチ代表

